ミモザ館（1934）

PENSION MIMOSAS

メディア 映画
ジャンル ロマンス　ドラマ
製作国　フランス
色彩　B&W
時間　110分
初公開日 1936/01
公開情報 東和

【解説】

　かつてトリュフォーが、フランス映画の最も忌むべき系譜と糾弾したフェデー＝スパークのコンビの名作。フェデーの夫人だったロゼーの存在感が凛として作品を支え、やはり魅力ある映画と言えよう。’２４年、南仏の海沿いの町で下宿屋ミモザ館を営むルイズ（ロゼー）は、お人好しの夫に代わって女将として宿を切り盛りしている。二人に子供はなく、親と離別した坊やを引き取って育てたが、やがて彼はパリの実父が連れ帰った。１０年後、成長したその男の子ピエール（ベルナール）は賭博に耽る自堕落な生活を送り、心配したルイズは彼を連れ戻す。が、密通していた親分の情婦ネリーもその後を追う。ルイズが母としてではなく、一人の女としてピエールを愛していることを指摘したネリーは、彼女に敵意を剥き出しにし、ルイズは秘かにパリの親分を呼び寄せ、ネリーを引き渡す。一方、相変わらず浮ついた暮らしのピエールは勤め先の使い込みがバレてしまい、ルイズはそれを償うため初めて趣いたカジノで、イチかバチかの賭けを当て大金を得るが、その頃には、ネリーを失った衝撃でピエールは自殺を選んでいた……。単純なメロドラマの図式からいたずらに逸脱しようとする“心理的リアリズム”のごまかしが煩く感じられる作品である。

【クレジット】

監督	ジャック・フェデー	Jacques Feyder
製作	シャルル＝フランシス・タヴィノ	
脚本	ジャック・フェデー	Jacques Feyder
	シャルル・スパーク	Charles Spaak
撮影	ロジェ・ユベール	Roger Hubert
音楽	アルマン・ベルナール	Armand Bernard
出演	フランソワーズ・ロゼー	Francoise Rosay
	ポール・ベルナール	Paul Bernard
	アンドレ・アレルム	Andre Alerme
	ジャン・マックス	
	アルレッティ	Arletty
	レイモン・コルディ	Raymond Cordy

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.